

脱原発は刺客です

脱原発を掲げ、後ろ盾には小泉元総理を配して、細川元首相が都知事選挙に立候補したのは、安倍首相への欧米から放たれた刺客です。

日本の再生、強い日本を、旗印に掲げる首相は、昨年から25カ国、年初からもアラブ、アフリカ諸国を訪問して勢力的に地球規模の経済活動を展開しています。

欧米諸国から見れば、映画「永遠のゼロ」のような神風特攻隊を連想させ、アジア諸国を席卷した旧日本軍の脅威が、トラウマとして甦っているようです。

昨年末の靖国神社参拝も、第一次政権時には参拝しなかった事を「痛恨の極み」と表明していた首相の行動が、米国に利用されたのです。中国の防空識別圏の設定や、北朝鮮の独裁色でアジアの緊張が高まる中、アジアの平和は日米安保が基軸です。小泉首相の参拝では何も言わなかった米国が「失望した」と一番に反応した裏には、輸入立国米国は、輸出して稼いだ国々から必ずお金を還流させるシステムを実行するためです。古くは日本が輸出で稼いだ分は原油高、ドル高で取り戻されました。今回の還流策は中国、台湾、韓国、日本アセアン諸国など米国から稼いだ国々に、武器、軍備を売って稼ぐつもりです。その為に米国は安倍参拝に間髪を入れずに、日米が一枚岩でないとアピールしたのです。この声明で一気にアジアの緊張が高まってきました。

タイ国がデモ隊で大変な騒ぎですがタクシン派、反タクシン派との戦いの様相です。日本とタイは600年にわたり交流があり、アセアン諸国への輸出基地がタイにあります。タイのデモも日本企業への圧力かもしれません。

靖国参拝、地球規模の経済展開、円の異次元緩和などで、日本が再生しようとしています。欧米資本は、バブル崩壊以後、自民党の一党支配の55年体制を終わらせて、二大政党制にしました。右か左か、イエスかノーかの政治は、コントロールしやすいのです。しかし2012年に自民党は衆院単独過半数。去年の参院選での圧勝で自民党の復活、そのバックの日本経済界の復活が我慢ならないのでしょうか。

それで細川元首相と小泉元首相を担ぎあげてきました。マスコミにもよく書かれている事ですが、小泉氏は郵政改革で小口貯金を欧米に差し出しました。細川元首相も二大政党を目論んで、小選挙区制を導入した小沢一郎氏が担ぎあげた殿様です。自民党の力と日本経済界の力を抑制したいとの思惑が、二人のコンビで都知事選挙に立候補させて、勝っても、負けても、脱原発で政界再編をして、二大政党に戻したい事が目的です。

細川元首相の立候補から日本株の動きはモタモタしています。刺客を振り返りに出来るか、殺られるか。2月9日の都知事選挙の結果が大きな天王山です。

日本を買うか米国を買うか。円を買うかドルを買うか。脱原発で省エネ関連を買うかとか、いろんな思惑が入り乱れておもしろい個別銘柄の相場展開でしょう。



平成26年1月18日
(株式講演家 三木文佑)

株式講演会の出張講演致します。
少人数でも喜んで。

090-5154-0515

